さくらやま便り

No.338 号　2022 年（令和 4 年）11 月 15 日

アボカド（3）

エッセイ（5）

板東　洋三郎

全ては自分の落度であると前置きをしてリーダーが話したのは、私たちが廃品回収をして作った資金を、運用のミスで失ってしまったという、にわかには信じがたい言葉であった。重い沈黙が続いたが、不思議なことに誰一人言葉を荒げるものはいなかった。行動をともにしてきた彼の人柄を疑う者もいなかった。この期に及んで言い争って解決するはずもない。だが、若者の特権か、状況の要求か、翌朝には、あたかも、いい夢を見させてもらっただけでも十分だ、とでも言うような雰囲気に変わっていた。それから数日後、私一人を残して皆それぞれの方向に向かって行った。私たちは、再び会うことはなかった。

その場所にとどまる理由のなくなった私は、南西隣のパラナ州の日本人のコーヒー園に移った。そこでは、５０００本のコーヒー樹の管理を任された。それは「メイア」（半分の意）という方式で、除草、施肥、収獲など必要なすべての作業は、収穫物の半分をもって支払らわれる、という契約であった。条件は悪くなく、働き手に恵まれていた家族は、このような契約のおかげで数年後には独立することもできた。

ほぼ1年が過ぎ、街で毎晩繰り返されるカーニバルの練習の音が、夜の静寂（しじま）の彼方からかすかに聞こえ始めていた。それはコーヒーの収穫が1か月後に近づいていた知らせでもあった。しかし、私の心で日々大きくなっていたのは、収獲によって得られる1年分の収入への期待ではなかった。練馬区の移住訓練所で初めて手にし、時に触れ読んでいた聖書を深く学びたいとの得も言えぬ思いであった。自分の意志とは一見かかわりのない世の中の動きに、翻弄されるような経験に何か意味があるのだろうか、などとずっと考えていた。

他の契約家族とは離れた一軒家に住んでいた私の住まいのすぐ後ろは、黒々とした原始林で、毎晩のように獣の鳴き声が聞こえた。夜空を見上げると南十字星が際立って見える。北海道の開拓地で北斗七星を頭上に見ながら育った私は、南半球の象徴的な星座を一日の終わりに見るのが楽しみでもあった。

そんな時、街で知り合いになっていた日本人牧師に、サンパウロのある大学の神学部を紹介された。私はその場で決心し、願書を出した。私の希望と決心をオーナーに話し、近いうちに仕事をやめたいと話すと、浮かぬ顔で「お金は払えないけれども、頑張りなさい」というようなことを言ってくれた。入試や必要な手続きをし、ひと月余り後、私はあの場所でアボカドをほおばっていたのだった。

６月の最後の日、最後の試験をし、前期が終わった。その日の夜、夜行バスの最後列の席に私はひとり座っていた。サンパウロ市から５００キロほどの地方都市で、書籍の訪問販売をするためであった。日本語でさえ物を売った経験はなかった上に、ポルトガル語もまだ十分には話せない。後期からは学内では働けず、学費はすべて現金で支払うという事実は重かった。

明け方にやっと眠れたと思うと、バスは目的地に着き、私は未知の現実の世界に放り出された。まずは宿を探す。後払いで泊めてくれる宿である。たいていは前払いか保証金を要求し、断られた。しかし、４、５軒目に訪ねた宿で、学んでいた大学の名を言うと。その大学なら、以前に私のような学生を泊めたことがあると主人は言い、受け入れてくれた。

翌朝、昨夜バスで暗記してきた書籍の説明書に、今一度目を通して出かける。商店街は難しいと聞いていたので、住宅街に行く。気が付くと通りの外れまで来ていた。そこからは戻るしかない。一軒目、二軒目は留守。三軒目はドアの向こうから断られた。内心ほっとする。次の家の人は途中まで聞いてくれたが、「忙しい」　と言って断られた。その日は１日働いて、見事に一冊も売れなかった。

二日目は、夕方になって子供向けの雑誌の年間契約が取れた。それだけであった。しかし、それは、以後３年半にわたる学費を支えた仕事に、自信を与えてくれるのに十分だった。

翌朝から後期の授業が始まる、７月の最後の日の夜、来た時と同じバスの最後部の同じ座に私はいた。来た時は心配で、今は嬉しくて半分泣きそう私。書籍代と後期の登録にちょうど必要なお金が、ズボンの左右のポケットに入っていた。

夏冬の休みを通じて私は、広いブラジルの多くの街々を訪

発行所・〒241-0802　横浜市旭区上川井町 1988 番地　ケアハウス　シャローム桜山　責任者・村本英邦　℡045-922-7330

れ、人々と話し、助けられ、励まされ、学費や生活費に加えて、教室では得ることのできない貴重な経験をさせてもらった。

目の前のアボカドが、青年時代の悲喜こもごもの記憶が収納されている、タイムカプセルのように見えてきた。（了）

◆　◆　◆　◆　◆　◆

生活相談員から

ケアハウス主任　遠藤裕之

1　貯湯槽の定期清掃を行います

・11月18日（金）の11時～17時入浴できます。
・11月18日（金）の17時～19日（土）は終日入浴できません。
・11月20日（日）は通常通り入浴出来ます。

ご不便をお掛けしますが、ご協力をお願いいたします。

2　避難訓練

11月25日（金）午後1時20分

居室から指定場所への避難訓練を行います。非常持ち出し用の荷物をご準備ください。訓練の詳細が決まりましたら、改めてご案内いたします。

3　全館停電

11月26日（土）13時半～16時

定期設備点検のため、全館が停電となります。この間の入浴はできません。天候不良で作業ができない場合は、12月17日に延期となります。ご協力をお願いいたします。

4　お願い

①　1階のエントランスホールに新聞を置いています。この新聞は皆さんの共有物です。切り取ったり持ち帰ったりなさらないよう、お願いいたします。

②　シャローム桜山・シャローム横浜は、館内と敷地内のすべてが禁煙となっています（来訪者も含む）。ご協力お願いいたします。

5　新しい活動のご紹介

音楽療法士とカラーセラピストの資格を持った先生による「色彩と音楽を使った楽しく元気になれる」活動を始めます。12月から月2回開催する予定です。参加を希望される方は、事務所にお申し出ください。なお参加費（1回　500円）や材料費は、生活費などと一緒に引き落としさせて頂きます。

6　新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス予防接種の接種間隔が5か月から3か月に短縮されました。当施設では5回目の予防接種を行う方向で医療機関と調整中です。日程などが決まりましたら、お知らせします。

なお、新型コロナウイルスやインフルエンザに感染された場合、旭区役所（保健所）の指導のもと対応いたします。一定期間は居室内で生活して頂くことが予想されます。感染予防にご協力をお願いいたします。

7　利用料について

横浜市からの通達により、13区分から18区分の方の事務費が4月にさかのぼって変更となりました。該当の方には、個別にご説明をさせて頂きました。また11月から来年3月までは、冬季加算2170円を例年通り請求させていただきます。

8　感謝申し上げます

健康診断とインフルエンザ予防接種が無事に終わりました。感染対応にもご理解頂き、併せてお礼申し上げます。なお、診断結果は送られて来次第お届けいたします。

◆　◆　◆　◆　◆　◆

栄養課から

城重　道人

「目分量」。私はこの言葉が怖くもあるし、また好きでもあります。シャロームで働き始めて22年が経ちましたが、この間に、私はシャローム横浜と法人が運営する「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」の栄養課で勤務しました。シャロームでは一日3食を作り、ケアプラザは日中がメインですので昼食を作りました。

それぞれの場所で特色を活かした食事作りがされますが、ご利用者の皆様の健康を第一とするメニューは、やはり「栄養」に気を配られたものです。いかに栄養と味のバランスをとってお出しするかが課題でした。栄養価をしっかり計算して間違いのないお食事を提供するためには大切なことです。一方、冒頭で書いた「目分量」は、作る者の感覚によるものが大きく、経験によってもだいぶ差が出てきます。ある意味、根拠がないとも言えます。

しかし、私は皆様にお出しするお食事をこの「経験」を根拠にしています。数字では表すことが出来ない「味」の質を自分の経験に置くことは勇気がいることですが、自分が美味しいと思える食事をお出ししたいと思うからです。その分、自分の健康管理にも注意を払っています。味覚は、その日の体調によって感じ方が変わってきますので、私自身が体調を整えて料理をするのでなければ、美味しい食事をお出しすることはできないからです。

コロナ禍の影響で、今はお弁当式でお食事をお出ししていますので、暖かい本来の味をお届けできておりません。それでも、自分が「美味しい」と思えるお食事を作って、皆様に笑顔で召し上がって頂きたいと思います。

11月の誕生者

11日　野本　貞子　様
13日　伊佐　眞之　様
17日　宮代　勲　様
29日　山上　洋子　様

お誕生日、おめでとうございます。お健やかな毎日をお祈り致します。

発行所・〒241-0802　横浜市旭区上川井町1988番地　ケアハウス　シャローム桜山　責任者・村本英邦　℡045-922-7330